

令和2年度 実務経験のある教員等による授業科目一覧および当該科目担当教員実務経験一覧 鍼灸学科

氏名	科目区分	必修選択の別	科目名	授業形式	設定学年	設定時期	時間数	単位数	内容	経歴		役職	業務内容・専門分野等	免許・資格	
										年月	職歴 (一部抜粋)			年月	免許・資格名 (一部抜粋)
原田 菜央	専門	必修	はりきゅう実技 I	実習	第1学年	前期	40	※1	はり実技基礎	平成22年4月～平成24年3月	はなまる整骨院		施術所において、鍼灸師としてはり治療、きゅう治療を行う	平成22年4月	はり師免許
										平成26年4月～平成27年3月	株式会社 Themis		ダンスチームのトレーナーとしてコンディショニング管理、はり治療、きゅう治療を行う。	平成22年4月	きゅう師免許
											平成25年4月～現在	はりきゅうアロマだいたい		出張を中心に鍼灸師としてはり治療、きゅう治療を行う。	
鈴木 陽平	専門	必修	はりきゅう実技 I	実習	第1学年	前期	40	※1	きゅう実技基礎	平成14年4月～平成21年3月	あい鍼灸整骨院		施術所において、鍼灸師としてはり治療、きゅう治療を行う	平成19年4月	はり師免許
										平成28年5月～平成30年5月	エイジレス鍼灸整骨院		施術所において、鍼灸師としてはり治療、きゅう治療を行う	平成19年4月	きゅう師免許
										平成30年6月～現在	岩瀬こころ鍼灸院	院長(開設者)	施術所において、鍼灸師としてはり治療、きゅう治療を行う		
高木 敏和	専門	必修	はりきゅう実技 I	実習	第1学年	前期	40	※1	はりきゅう用具の適切な使用と術式、衛生・リスク管理	平成11年4月～現在	葦山はりきゅう院		施術所において、鍼灸師としてはり治療、きゅう治療を行う	昭和56年6月	はり師免許師
										平成12年4月～現在	岸クリニック		リハビリ業務を扱う	昭和56年6月	きゅう師免許
														昭和55年4月	あん摩マッサージ指圧師免許
山崎 康平	専門	必修	東洋医学概論 I	講義	第1学年	前期	40	2	気血津液精、陰陽、臓腑の生理・病理	平成27年5月～現在	ユリ治療室		施術所において、鍼灸師として東洋医学理論に基づいたはり治療、きゅう治療を行う	平成27年4月	はり師免許師
	専門	必修	東洋医学臨床論 II	講義	第3学年	前期	40	2	症例検討・弁証論治	平成29年4月～現在	おおもり東口はりきゅう治療室		施術所において、鍼灸師として東洋医学理論に基づいたはり治療、きゅう治療を行う	平成27年4月	きゅう師免許
														平成27年4月	あん摩マッサージ指圧師免許
鬼頭 健介	基礎	必修	スポーツ・健康概論 II	講義	第2学年	前期	40	2	傷害発生時の評価・測定、テーピング、ストレッチ、エクササイズ	平成14年4月～平成15年9月	愛知県立安城南高等学校 硬式野球部トレーナー		高校野球部トレーナーとして、コンディショニング管理、リハビリプログラムの作成、リハビリ業務を行う	平成12年3月	中学校・高等学校教諭1種免許状(保健体育)
										平成15年10月～平成30年12月	株式会社 読売巨人軍トレーナー		巨人軍トレーナーとして、コンディショニング管理、リハビリプログラムの作成、リハビリ業務を行う	平成15年6月	はり師免許師
														平成15年6月	きゅう師免許
														平成15年6月	あん摩マッサージ指圧師免許
合計							240	10							

※1 はりきゅう実技 I は上記3授業をもって4単位と換算する。

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼灸	担当学年	2年
科目名	スポーツ・健康概論Ⅱ	授業方法	講義	講師名	鬼頭 健介
授業目標	傷害発生時の評価・測定を理解し、実際の臨床現場で役立つ知識やテーピング・ストレッチ・エクササイズ技術を身につけながら治癒までの過程を学ぶ。				
実務経験のある教員等による授業科目	平成15年10月～平成30年12月まで巨人軍トレーナーとして、コンディショニング管理、リハビリプログラム作成、リハビリ業務を行う。実務経験を生かし、スポーツ・健康概論の授業を行う。				
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	授業概要			
	2	傷害時の評価方法①・実技			
	3	②・実技			
	4	傷害時の身体測定・関節弛緩性・関節可動域・柔軟性・筋タイトネスの評価・測定①			
	5	〃 ②			
	6	テーピング概要			
	7	下肢のテーピング(足関節:フィギュアエイト)①			
	8	下肢のテーピング(足関節:ヒールロック固定)②			
	9	下肢のテーピング(足関節:バスケットウィーブ固定)③			
	10	下肢のテーピング(膝関節:Xサポートテープ固定)①			
	11	下肢のテーピング(膝関節:復習・スパイラルテープ・サポートテープ)②			
	12	キネシオテーピング①			
	13	キネシオテーピング②			
	14	様々なストレッチ(全身)①			
	15	②			
	16	自重エクササイズ			
	17	テーピング総合実習			
	18	前期試験(実技試験)			
	19	解説・採点のポイントを説明			
20	前期ポイントの復習/応急処置				
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	□筆記試験 / <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 □その他()			7割
	定期試験 外評価法	<input type="checkbox"/> 小テスト / <input type="checkbox"/> 中間テスト / <input type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 出席状況 / <input checked="" type="checkbox"/> 授業態度 / その他()			3割
基準	80点以上をA、70点以上80点未満をB、60点以上70点未満をCとし、60点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	JATIトレーニング指導者(実践編)、日本体育協会公認アスレティックトレーナーテキスト6巻			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼灸	担当学年	1年
科目名	はりきゅう実技 I	授業方法	実技	講師名	原田 菜央
授業目標	鍼治療の基本的な知識を学び、刺鍼の技術を習得することを目標とし、実技を行うにあたっての心構え、所作を身に付ける。使用する鍼の名称や種類、取り扱い方法を学び刺鍼における危険性や安全管理を学習する。直刺、斜刺、横刺を正確に刺入することができる。				
実務経験のある教員等による授業科目	平成25年4月よりはりきゅうアロマだいを開設し、鍼灸師としてはり治療、きゅう治療を行う。実務経験を生かし、基礎はり実技の授業を行う。				
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス、実技室の使用法、消毒法(手洗い、手指消毒)			
	2	挿管法、管鍼法(一連の動作)の確認			
	3	挿管法、刺鍼練習(刺鍼練習台による練習)			
	4	刺鍼練習(刺鍼練習台による練習)			
	5	刺鍼練習(刺鍼練習台による練習)、刺鍼中の手技(17手技)			
	6	刺鍼の角度(刺鍼練習台による練習)、刺鍼中の手技(17手技)			
	7	浮き物通し			
	8	中間試験練習			
	9	中間試験(実技)			
	10	刺鍼練習(自身の下腿への刺鍼練習)			
	11	刺鍼練習(自身の下腿への刺鍼練習)			
	12	刺鍼練習(自身の下腿への刺鍼練習)			
	13	刺鍼練習(自身の下腿への刺鍼練習)			
	14	刺鍼練習(自身の下腿への取穴、刺鍼練習)			
	15	刺鍼練習(取穴、下腿への刺鍼練習)			
	16	刺鍼練習(取穴、下腿への刺鍼練習)			
	17	前期試験(筆記試験)			
	18	前期試験(実技試験)			
	19	解説・採点の説明			
20	前期総括				
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 / <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> その他()			7割
	定期試験 外評価法	<input checked="" type="checkbox"/> 小テスト / <input checked="" type="checkbox"/> 中間テスト / <input type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 出席状況 / <input checked="" type="checkbox"/> 授業態度 / <input checked="" type="checkbox"/> その他(持ち物)			3割
基準	80点以上をA、70点以上80点未満をB、60点以上70点未満をCとし、60点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	教科書(はりきゅう実技〈基礎編〉) その他適宜資料配布			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼灸	担当学年	1年
科目名	はりきゅう実技 I	授業方法	実技	講師名	高木 敏和
授業目標	施術で用いる鍼および灸についての基礎を理解する。鍼灸治療の手技の種類や技術を学び、正しくリスク管理ができるようにする。				
実務経験のある教員等による授業科目	平成11年4月より蕪山はりきゅう院を開設し、鍼灸師としてはり治療、きゅう治療を行う。実務経験を生かし、はりきゅう施術の手技の種類や技術について授業を行う。				
授業内容及び進捗	回数	項目・内容			
	1	鍼および灸術の定義, など			
	2	鍼の基礎知識(1)用具の説明, など			
	3	鍼の基礎知識(2)古代九鍼			
	4	刺鍼の方式と術式(1)前揉捏法・後揉捏法, など			
	5	刺鍼の方式と術式(2)押手・刺手・切皮			
	6	刺鍼の方式と術式(3)基本手技(その1)			
	7	刺鍼の方式と術式(4)基本手技(その2)			
	8	特殊鍼法(1)小児鍼・皮内鍼・円皮鍼			
	9	特殊鍼法(2)灸頭鍼・低周波鍼通電法, など			
	10	鍼の臨床応用			
	11	リスク管理(1)過誤・副作用			
	12	リスク管理(2)感染症対策			
	13	灸の基礎知識			
	14	灸の種類(有痕灸)			
	15	灸の種類(無痕灸)			
	16	灸の臨床応用			
	17	リスク管理			
	18	後期試験(筆記試験)			
	19	解説・採点のポイントを説明			
20	まとめ				
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 / <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> その他()			9割
	定期試験 外評価法	<input checked="" type="checkbox"/> 小テスト / <input type="checkbox"/> 中間テスト / <input type="checkbox"/> 発表 <input type="checkbox"/> 出席状況 / <input type="checkbox"/> 授業態度 / その他()			1割
基準	80点以上をA、70点以上80点未満をB、60点以上70点未満をCとし、60点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	東洋療法学校協会 はりきゅう理論、はりきゅう実技など			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼灸	担当学年	1年
科目名	はりきゅう実技 I	授業方法	実技	講師名	鈴木 陽平
授業目標	灸施術を行うにあたり、艾(もぐさ)を捻る、立てる、着火する、適切に緩和することができるように技術を磨いていく。竹上施灸、米粒大を3分間で20壮以上できるようにする。				
実務経験のある教員等による授業科目	平成30年6月より岩瀬こころ鍼灸院を開設し、鍼灸師としてはり治療、きゅう治療を行う。実務経験を生かし、基礎きゅう実技の授業を行う。				
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	オリエンテーション、実技道具の説明、灸の基礎知識について			
	2	有痕灸、無痕灸について もぐさのひねり方			
	3	もぐさの種類、もぐさ捻り練習			
	4	灸基礎練習① 着火の練習			
	5	灸基礎練習②			
	6	灸基礎練習③			
	7	灸基礎練習④			
	8	自己施灸(三陰交、復溜) 知熱灸			
	9	自己施灸(血海、梁丘) 知熱灸			
	10	自己施灸(足三里、陰陵泉) 透熱灸			
	11	竹上施灸小テスト			
	12	対人施灸(曲池、合谷)			
	13	対人施灸(偏歴、温溜)			
	14	対人施灸(腰陽関、命門)			
	15	対人施灸(身柱、至陽)			
	16	対人施灸(肺兪・膏肓・膈兪)			
	17	試験前 総まとめ			
	18	前期試験			
	19	竹筒を用いた灸(深谷灸法実践)			
20	澤田流太極療法実践				
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	□筆記試験 / <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 □その他()			10割
	定期試験 外評価法	□小テスト / □中間テスト / □発表 □出席状況 / □授業態度 / その他()			割
基準	80点以上をA、70点以上80点未満をB、60点以上70点未満をCとし、60点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	東洋療法学校協会 はりきゅう実技<基礎編>			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼灸	担当学年	1年
科目名	東洋医学概論 I	授業方法	講義	講師名	山崎 康平
授業目標	東洋医学の思想、世界観と人体との相関関係を理解する。また、気血津液精、陰陽、臓腑などの東洋医学に特有な人体の捉え方を学び、それらの生理と病理を理論立てて学ぶことで、弁証論治を行う際に活用できる形での知識の習得を目指す。				
実務経験のある教員等による授業科目	平成29年4月より鍼灸師としておおもり東口はりきゅう治療室にて東洋医学理論に基づいたはり治療、きゅう治療を行う。実務経験を生かし、東洋医学概論の授業を行う。				
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス			
	2	第1章 東洋医学の特徴(P2~36)			
	3	第2章 生理と病理(P37~180) ①生理事物質:気(P42~50)			
	4	②生理事物質:血(P50~53)			
	5	③生理事物質:津液(54~58)			
	6	④生理事物質:精(P38~42)			
	7	⑤生理事物質の相互関係(P58~62)			
	8	⑥神(P62~68)			
	9	⑦陰陽、陰陽学説(P68~73、182~187)			
	10	⑧蔵象、五行学説(P74~77、188~200)			
	11	⑨五臓:肝系統(P77~87)			
	12	⑩五臓:心系統(P87~97)			
	13	⑪五臓:脾系統(P97~106)			
	14	⑫五臓:肺系統(P106~115)			
	15	⑬五臓:腎系統、三焦(P115~127)			
	16	⑭五臓の相互関係(P127~142)			
	17	まとめ			
	18	前期試験(筆記試験)			
	19	試験解説・採点のポイントを説明			
20	総括				
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 / <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> その他()			8割
	定期試験 外評価法	<input checked="" type="checkbox"/> 小テスト(1割) / <input type="checkbox"/> 中間テスト / <input type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 出席状況(1割) / <input checked="" type="checkbox"/> 授業態度(減点方式)			2割
基準	80点以上をA、70点以上80点未満をB、60点以上70点未満をCとし、60点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	東洋療法学校協会 東洋医学概論			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

授業要項及び授業計画書

課程	医療専門課程	担当学科	鍼灸	担当学年	3年
科目名	東洋医学臨床論Ⅱ	授業方法	講義	講師名	山崎 康平
授業目標	東洋医学概論で学んだ生体物質・臓腑の生理・病理、弁証論治などの基礎知識と、東洋医学臨床論Ⅰで学んだ臨床に即した応用知識を再確認する。また、それらの知識を実際の治療にどのように活用するかを、具体的な症例を通して学ぶ。				
実務経験のある教員等による授業科目	平成29年4月より鍼灸師としておおもり東口はりきゅう治療室にて東洋医学理論に基づいたはり治療、きゅう治療を行う。実務経験を生かし、東洋医学臨床論の授業を行う。				
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス			
	2	東洋医学の特徴			
	3	生体物質 ①			
	4	生体物質 ②			
	5	神、陰陽			
	6	五行			
	7	五臓 ①			
	8	五臓 ②			
	9	五臓 ③			
	10	気機、経絡病証			
	11	四診			
	12	経絡・経脈弁証			
	13	六経・衛気営血・三焦弁証			
	14	難経六十九難			
	15	古代刺法			
	16	補瀉			
	17	まとめ			
	18	前期試験(筆記試験)			
	19	試験解説・採点のポイントを説明			
	20	総括			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 / <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> その他()			9割
	定期試験 外評価法	<input type="checkbox"/> 小テスト / <input type="checkbox"/> 中間テスト / <input type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 出席状況(1割) / <input checked="" type="checkbox"/> 授業態度(減点方式)			1割
基準	80点以上をA、70点以上80点未満をB、60点以上70点未満をCとし、60点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	東洋療法学校協会 東洋医学概論、東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉			
	配布資料の有無	有			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

学科名	鍼灸学科	学年	1	学生数	25	
成績の分布						
指標の数值	～50点	50	60	70	80	90
		～60点	～70点	～80点	～90点	～100点
人数	0	0	2	8	8	7
下位1/4に該当する人数 6人						
下位1/4に該当する指標の数值 76.7点以下						

令和元年1年後期成績

← $25 \div 4 = 6.25$ 小数点以下切り捨て(四捨五入ではない。)

← 下から6番目の人の平均点

令和二年度 実務経験のある教員等による授業科目一覧および当該科目担当教員実務経験一覧 柔道整復学科（昼間部・夜間部）

氏名	科目区分	必修選択の別	科目名	授業形式	設定学年	設定時期	時間数	単位数	内容	経歴		役職	業務内容・専門分野等	免許・資格	
										年月	職歴 (一部抜粋)			年月	免許・資格名 (一部抜粋)
小澤 健史	専門基礎	必修	解剖学Ⅰa	講義	第1学年	前期	40	2	解剖学講義	平成5年4月～平成12年3月	おざわ接骨院		柔道整復師として骨折、脱臼、打撲、捻挫といった外傷を扱う	平成5年4月	柔道整復師免許
											アイユーデイサービス株式会社	代表取締役	高齢者介護施設において機能訓練の実施、デイサービスの運営を行う。	平成12年4月	介護支援専門員
柴田 浩介	専門	必修	関係法規	講義	第2学年	前期	20	1	柔道整復師法講義	平成10年4月～平成17年3月	(有)サンシーバ		柔道整復師として骨折、脱臼、打撲、捻挫といった外傷を扱う	平成20年4月	柔道整復師免許
	専門	必修	基礎柔整Ⅰb	講義	第1学年	前期	40	2	脱臼総論講義		社会福祉法人 駿府葵会	デイサービス管理者	高齢者介護施設において機能訓練の実施、デイサービスの運営を行う。	平成27年4月	介護支援専門員
												居宅介護支援事業所管理者	居宅サービス計画書の作成及び支援の実施、居宅介護支援事業所の運営を行う。		
馬淵 良美	専門	必修	物理療法取扱い	講義	第3学年	前期	20	1	物理療法取扱講義	平成25～現在	まぶち鍼灸接骨院		柔道整復師として骨折、脱臼、打撲、捻挫といった外傷を扱う	平成25年4月	柔道整復師免許
山田 好洋	専門	必修	基礎柔整Ⅰa	講義	第1学年	前期	40	2	骨折上肢総論講義	昭和60年8月～平成3年3月	高島平整形外科		柔道整復師として骨折、脱臼、打撲、捻挫といった外傷を扱う	昭和60年8月	柔道整復師免許
										平成3年4月～平成4年3月	中西病院		柔道整復師として骨折、脱臼、打撲、捻挫といった外傷を扱う		
										平成4年5月～現在	山田接骨院	院長（開設者）	柔道整復師として骨折、脱臼、打撲、捻挫といった外傷を扱う		
小松 敏美	専門	必修	外傷の保存療法	講義	第3学年	前期	20	1	骨折、脱臼固定講義	平成6年4月～現在	日漢堂整骨院	院長（開設者）	柔道整復師として骨折、脱臼、打撲、捻挫といった外傷を扱う	平成6年4月	柔道整復師免許

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復学科	担当学年	1年
科目名	解剖学 I a	授業方法	講義	講師名	小澤 健史
授業目標	柔道整復師として人体解剖学の知識は必要不可欠であり、その知識は臨床医学に即応するものでなくてはならない。本講義では、必要な知識、技術等を教授する。				
実務経験のある教員等による授業科目	平成5年4月～平成12年3月 おざわ接骨院にて柔道整復師として骨折、脱臼、打撲、捻挫といった外傷を扱う それらの経験を活かし柔道整復術に関わる骨や筋肉の講義を行う。				
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス 解剖学的用語			
	2	骨格系_骨総論			
	3	骨格系_脊柱・胸郭			
	4	骨格系_上肢骨			
	5	骨格系_上肢の関節			
	6	骨格系_下肢骨			
	7	骨格系_下肢の関節			
	8	骨格系_頭蓋			
	9	骨格系_頭蓋			
	10	筋系_骨格筋総論・頭部の筋			
	11	筋系_頸部・胸部の筋			
	12	筋系_腹部の筋			
	13	筋系_背部の筋			
	14	筋系_上肢の筋			
	15	筋系_上肢の筋			
	16	筋系_下肢の筋			
	17	筋系_下肢の筋			
	18	前期のまとめ			
	19	前期試験(筆記試験)			
	20	解説・採点のポイントを説明			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 / <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> その他()			7割
	定期試験 外評価法	<input type="checkbox"/> 小テスト / <input type="checkbox"/> 中間テスト / <input type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 出席状況 / <input checked="" type="checkbox"/> 授業態度 / その他()			3割
基準	80点以上をA、70点以上80点未満をB、60点以上70点未満をCとし、60点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	全国柔道整復学校協会 解剖学 改正第2版			
	配布資料の有無	有・無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復学科	担当学年	3年
科目名	外傷の保存療法	授業方法	講義	講師名	小松 敏美
授業目標	保存療法の基本を理解し固定法を学ぶ。固定に使用する材料と利用方法を理解し、患者への指導管理を学ぶ。				
実務経験のある教員等による授業科目	平成6年4月～現在 日漢堂整骨院院長(開設者)柔道整復師として骨折、脱臼、打撲、捻挫といった外傷を扱う。現在の経験を活かし骨折、脱臼、軟部組織損傷の固定実技を行う。				
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	固定法と固定材料①～③	P98～105	4/7	
	2	固定法と固定材料①～③	P98～105		
	3	固定法と固定材料①～③	P98～105		
	4	鎖骨骨折の固定		4/28	
	5	上腕骨骨幹部三角筋付着部より遠位骨折の固定		5/12	
	6	コーレス骨折の固定		5/26	
	7	第5中手骨頸部骨折の固定		6/2	
	8	肋骨骨折の固定		6/9	
	9	肩鎖関節上方脱臼の固定		6/16	
	10	肩関節烏口下脱臼の固定		6/23	
	11	肘関節後方脱臼の固定		6/30	
	12	示指PIP関節背側脱臼の固定		7/7	
	13	膝関節内側側副靭帯損傷の固定		7/14	
	14	アキレス腱断裂の固定		7/21	
	15	足関節外側靭帯損傷の固定		7/28	
	16	下腿骨骨幹部骨折の固定		8/18	
	17	固定に関する指導管理		8/25	
	18	前期のまとめ		9/1	
	19	前期定期試験		9/8	
	20	解説		9/15	
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 / <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> その他()			10割
	定期試験 外評価法	<input type="checkbox"/> 小テスト / <input type="checkbox"/> 中間テスト / <input type="checkbox"/> 発表 <input type="checkbox"/> 出席状況 / <input type="checkbox"/> 授業態度 / その他()			割
基準	80点以上をA、70点以上80点未満をB、60点以上70点未満をCとし、60点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	柔道整復学・理論第6版 柔道整復学・実技第2版 包帯学			
	配布資料の有無	有・無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復学科	担当学年	2年
科目名	関係法規	授業方法	講義	講師名	柴田 浩介
授業目標	関係法規(柔道整復師法等)、社会保障制度の理解を深め、柔道整復師としての倫理を学ぶ				
実務経験のある教員等による授業科目	接骨院にて柔道整復師として骨折、脱臼、打撲、捻挫といった外傷を扱い、高齢者介護施設において機能訓練の実施、居宅介護支援事業所の運営を行った。この経験から学生に対し柔道整復師法等の遵守及び独立開業の将来像を持たせることができる。				
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	オリエンテーション 法の意義 P1～3			
	2	インフォームド・コンセント アセント P4			
	3	医療過誤とリスクマネジメント P5			
	4	柔道整復師法とその関連内容 総則 P10			
	5	柔道整復師免許 免許の申請の仕方 免許取り消し P11			
	6	柔道整復師国家試験について P20			
	7	柔道整復師の業務範囲 P25			
	8	施術所の届け出(開設、休止、廃止、設備基準、衛生上必要な処置)P30			
	9	接骨院開業における広告の制限 P33			
	10	罰則について(刑法、柔道整復師法、医師法、医療法) P38			
	11	両罰規定について(開設者と従業員の両罰規定) P41			
	12	指定登録機関及び指定試験機関 P42			
	13	医療従事者の資格法 P47			
	14	社会保障制度及び国民医療費について P1～15			
	15	柔道整復師療養費について P20			
	16	受療委任払いと償還払いについて P21			
	17	療養費の算定 P25			
	18	療養費請求のケーススタディ P34			
	19	前期末試験			
20	テスト返し 解説				
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 / <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> その他()			7割
	定期試験 外評価法	<input type="checkbox"/> 小テスト / <input type="checkbox"/> 中間テスト / <input type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 出席状況 / <input checked="" type="checkbox"/> 授業態度 / その他()			3割
基準	80点以上をA、70点以上80点未満をB、60点以上70点未満をCとし、60点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	医師薬出版株式会社 関係法規 2019年版 社会保障制度と柔道整復師の職業倫理			
	配布資料の有無	有・無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復学科	担当学年	1年
科目名	基礎柔整Ia	授業方法	講義	講師名	山田好洋
授業目標	柔道整復の基本である、骨折の基礎を学び、柔道整復師の心得を学ぶ。				
実務経験のある教員等による授業科目	高島平整形外科勤務 中西病院勤務 平成4年5月～現在 山田接骨院院長(開設者)柔道整復師として骨折、脱臼、打撲、捻挫といった外傷を扱う。これらの経験を活かしより臨床に近い骨折の講義を行う。				
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス			
	2	P.21 各組織の損傷			
	3	P.23 DVDにて復習			
	4	P.23 B 骨折の分類			
	5	P.24 C 骨折の分類			
	6	復習(小テスト)			
	7	P.31 D 骨折の症状			
	8	復習(小テスト)			
	9	P.35 E 骨折の合併症			
	10	復習			
	11	P.40 F 小児、高齢者の骨折			
	12	P.43 G～J			
	13	包帯実技			
	14	P.91 整復法			
	15	P.98 整復法			
	16	P.135指導管理			
	17	復習(小テスト)			
	18	前期振り返り			
	19	前期試験			
20	解説				
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 / <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> その他()			7割
	定期試験 外評価法	<input checked="" type="checkbox"/> 小テスト / <input type="checkbox"/> 中間テスト / <input type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 出席状況 / <input checked="" type="checkbox"/> 授業態度 / その他()			3割
基準	80点以上をA、70点以上80点未満をB、60点以上70点未満をCとし、60点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	南江堂 柔道整復学・理論編改訂第6版 南江堂 実技編・包帯固定学改訂第2版			
	配布資料の有無	有・無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復学科	担当学年	1年
科目名	基礎柔整 I b	授業方法	講義	講師名	柴田 浩介
授業目標	脱臼の整復法や包帯固定の基本を学び、外傷を負ったものに対し施術ができる。				
実務経験のある教員等による授業科目	柔道整復師として骨折、脱臼、打撲、捻挫といった外傷を扱い、高齢者介護施設において機能訓練の実施、デイサービスの運営を行い、居宅介護支援事業所の運営を行った。この経験をもとに脱臼の整復法や基本包帯法の実技を学ばせる。				
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	オリエンテーション 人体に加わる力 損傷時に加わる力 P12-15			
	2	各組織の損傷 脱臼 P59-61			
	3	各組織の損傷 脱臼 P62-66			
	4	脱臼の整復法 P95-96			
	5	固定法 P98-105 包帯固定学 改定2版も使用			
	6	固定法 P98-105 包帯固定学 改定2版も使用			
	7	固定法 P98-105 包帯固定学 改定2版も使用			
	8	包帯の巻き方 包帯の種類について			
	9	包帯巻きとり 実技テスト (10点)			
	10	固定材料について(硬性材料、軟性材料)			
	11	基本包帯法 上行麦穂帯			
	12	基本包帯法 デゾー包帯			
	13	基本包帯法 ヴェルポー包帯 ジュール包帯			
	14	三角巾の巻き方			
	15	三角巾の巻き方			
	16	基本包帯法 実技テスト 三角巾 (20点)			
	17	前期振り返り 脱臼総論			
	18	前期振り返り 包帯固定学			
	19	前期テスト			
	20	テスト返し 前期まとめ			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 / <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> その他()			7割
	定期試験 外評価法	<input checked="" type="checkbox"/> 小テスト / <input type="checkbox"/> 中間テスト / <input type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 出席状況 / <input checked="" type="checkbox"/> 授業態度 / その他()			3割
基準	80点以上をA、70点以上80点未満をB、60点以上70点未満をCとし、60点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	南江堂 柔道整復学・理論編 改定6版 包帯固定学 改定2版			
	配布資料の有無	有・無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復	担当学年	3年
科目名	物理療法機器の取扱い	授業方法	講義	講師名	大竹 良美
授業目標	柔道整復師が取扱う物理療法機器の知識を習得し資格取得時に扱うことができる。				
実務経験のある教員 等による授業科目	平成25年～現在勤務まぶち鍼灸接骨院 現在も臨床の現場にいる中で物理療法機器を取り扱っている。 この経験を活かし現在の物理療法機器の現状や取扱を講義する。				
授業内容 及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス、E.物理療法 1.分類、2.安全対策(P113～114)			
	2	3.主な物理療法 a.電気療法(P114～118)			
	3	低周波電気刺激療法、中周波電気療法			
	4				
	5	b.温熱療法 b-1.伝導熱療法(P118～121)			
	6	ホットパック療法、パラフィン浴療法、水(局所浴)療法			
	7	b-2.輻射熱療法(P122)			
	8	b-3.変換熱療法(P122～P126)			
	9	超短波療法、極超短波療法、超音波療法			
	10				
	11	c.光線療法(P126～128)			
	12	d.寒冷療法(P128～131)			
	13	伝導冷却法、対流冷却法、気化冷却法			
	14				
	15	e.牽引療法(P131～134)			
	16	頸椎介達牽引、腰椎介達牽引			
	17				
	18	f.その他(P134～135)			
	19	前期試験			
	20	解説・採点のポイント説明			
成績評価 の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 / <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> その他()			10割
	定期試験 外評価法	<input type="checkbox"/> 小テスト / <input type="checkbox"/> 中間テスト / <input type="checkbox"/> 発表 <input type="checkbox"/> 出席状況 / <input type="checkbox"/> 授業態度 / その他()			割
基準	80点以上をA、70点以上80点未満をB、60点以上70点未満をCとし、60点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	南江堂 柔道整復・理論編 改訂第6版			
	配布資料の有無	有・無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復学科	担当学年	1年
科目名	解剖学 I a	授業方法	講義	講師名	小澤 健史
授業目標	柔道整復師として人体解剖学の知識は必要不可欠であり、その知識は臨床医学に即応するものでなくてはならない。本講義では、必要な知識、技術等を教授する。				
実務経験のある教員等による授業科目	平成5年4月～平成12年3月 おざわ接骨院にて柔道整復師として骨折、脱臼、打撲、捻挫といった外傷を扱う それらの経験を活かし柔道整復術に関わる骨や筋肉の講義を行う。				
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス 解剖学的用語			
	2	骨格系_骨総論			
	3	骨格系_脊柱・胸郭			
	4	骨格系_上肢骨			
	5	骨格系_上肢の関節			
	6	骨格系_下肢骨			
	7	骨格系_下肢の関節			
	8	骨格系_頭蓋			
	9	骨格系_頭蓋			
	10	筋系_骨格筋総論・頭部の筋			
	11	筋系_頸部・胸部の筋			
	12	筋系_腹部の筋			
	13	筋系_背部の筋			
	14	筋系_上肢の筋			
	15	筋系_上肢の筋			
	16	筋系_下肢の筋			
	17	筋系_下肢の筋			
	18	前期のまとめ			
	19	前期試験(筆記試験)			
	20	解説・採点のポイントを説明			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 / <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> その他()			7割
	定期試験 外評価法	<input type="checkbox"/> 小テスト / <input type="checkbox"/> 中間テスト / <input type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 出席状況 / <input checked="" type="checkbox"/> 授業態度 / その他()			3割
基準	80点以上をA、70点以上80点未満をB、60点以上70点未満をCとし、60点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	全国柔道整復学校協会 解剖学 改正第2版			
	配布資料の有無	有・無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復学科	担当学年	1 年
科目名	基礎柔整 I a	授業方法	講義	講師名	山田 好洋
授業目標	柔道整復の基本である、骨折の基礎を学び、柔道整復師の心得を学ぶ。				
実務経験のある教員等による授業科目	高島平整形外科勤務 中西病院勤務 平成 4 年 5 月～現在 山田接骨院院長(開設者)柔道整復師として骨折、脱臼、打撲、捻挫といった外傷を扱う。これらの経験を活かしより臨床に近い骨折の講義を行う。				
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	ガイダンス			
	2	P.21 各組織の損傷			
	3	P.23 DVD にて復習			
	4	P.23 B 骨折の分類			
	5	P.24 C 骨折の分類			
	6	復習(小テスト)			
	7	P.31 D 骨折の症状			
	8	復習(小テスト)			
	9	P.35 E 骨折の合併症			
	10	復習			
	11	P.40 F 小児、高齢者の骨折			
	12	P.43 G～J			
	13	包帯実技			
	14	P.91 整復法			
	15	P.98 整復法			
	16	P.135指導管理			
	17	復習(小テスト)			
	18	前期振り返り			
	19	前期試験			
20	解説				
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 / <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> その他()			7 割
	定期試験 外評価法	<input checked="" type="checkbox"/> 小テスト / <input type="checkbox"/> 中間テスト / <input type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 出席状況 / <input checked="" type="checkbox"/> 授業態度 / その他()			3 割
基準	80 点以上を A、70 点以上 80 点未満を B、60 点以上 70 点未満を C とし、60 点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	南江堂 柔道整復学・理論編改訂第 6 版 南江堂 実技編・包帯固定学改訂第 2 版			
	配布資料の有無	有・無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

課程	医療専門課程	担当学科	柔道整復学科	担当学年	1年
科目名	基礎柔整 I b	授業方法	講義	講師名	柴田 浩介
授業目標	脱臼の整復法や包帯固定の基本を学び、外傷を負ったものに対し施術ができる。				
実務経験のある教員等による授業科目	柔道整復師として骨折、脱臼、打撲、捻挫といった外傷を扱い、高齢者介護施設において機能訓練の実施、デイサービスの運営を行い、居宅介護支援事業所の運営を行った。この経験をもとに脱臼の整復法や基本包帯法の実技を学ばせる。				
授業内容及び進度	回数	項目・内容			
	1	オリエンテーション 人体に加わる力 損傷時に加わる力 P12-15			
	2	各組織の損傷 脱臼 P59-61			
	3	各組織の損傷 脱臼 P62-66			
	4	脱臼の整復法 P95-96			
	5	固定法 P98-105 包帯固定学 改定2版も使用			
	6	固定法 P98-105 包帯固定学 改定2版も使用			
	7	固定法 P98-105 包帯固定学 改定2版も使用			
	8	包帯の巻き方 包帯の種類について			
	9	包帯巻きとり 実技テスト (10点)			
	10	固定材料について(硬性材料、軟性材料)			
	11	基本包帯法 上行麦穂帯			
	12	基本包帯法 デゾー包帯			
	13	基本包帯法 ヴェルポー包帯 ジュール包帯			
	14	三角巾の巻き方			
	15	三角巾の巻き方			
	16	基本包帯法 実技テスト 三角巾 (20点)			
	17	前期振り返り 脱臼総論			
	18	前期振り返り 包帯固定学			
	19	前期テスト			
	20	テスト返し 前期まとめ			
成績評価の方法		該当する項目の□にチェックをしてください。(複数可)			評価割合
	定期試験 評価法	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 / <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> その他()			7割
	定期試験 外評価法	<input checked="" type="checkbox"/> 小テスト / <input type="checkbox"/> 中間テスト / <input type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> 出席状況 / <input checked="" type="checkbox"/> 授業態度 / その他()			3割
基準	80点以上をA、70点以上80点未満をB、60点以上70点未満をCとし、60点未満を不合格とする。				
参考図書	教科書・参考書名	南江堂 柔道整復学・理論編 改定6版 包帯固定学 改定2版			
	配布資料の有無	有 無			

※その他、レポートや対外活動等を評価に加味する場合がある

学科名	柔道整備学科昼間部	学年	1	学生数	21	
成績の分布						
指標の数値	～50点	50	60	70	80	90
		～60点	～70点	～80点	～90点	～100点
人数	0	0	2	8	8	7
下位1/4に該当する人数 5人						
下位1/4に該当する指標の数値 73.5点以下						

令和元年1年後期成績

← $21 \div 4 = 5 \dots$ 小数点以下切り捨て(四捨五入ではない。)

← 下から5番目の人の平均点

学科名	柔道整備学科夜間部	学年	1	学生数	6	
成績の分布						
指標の数値	～50点	50	60	70	80	90
		～60点	～70点	～80点	～90点	～100点
人数		0	0	2	3	1
下位1/4に該当する人数 1人						
下位1/4に該当する指標の数値 73.7点以下						

令和元年1年後期成績

← $6 \div 4 = 1.5 \dots$ 小数点以下切り捨て(四捨五入ではない。)

← 下から1番目の人の平均点